

彙報

京都哲學會秋期公開講演會

京都哲學會は十一月十日午後一時より文科大學第九教室に於て秋期公開講演會を開き、左の講演あり。藤代學長を初め、諸教員學士、學生、その他の會員及び一般聽講者堂に充てり。

ソフイストとソクラテス

文學博士 波多野精一君

支那思想史より見たる河南省

文學博士 服部宇之吉君

右講演後、午後六時より學生集會所に於て、服部博士親迎の晩餐會を開き、文科大學諸教員、諸學士等廿餘名出席せり。

心理學讀書會

十月廿四日午後三時半より心理學實驗場に於て例會を開き左の講演あり。

Dawson の兩眼視現象に關する三論文

文學士 黒田源次君

内部的知覺に就て

文學士 齋藤理作君

社會學會

十月廿五日午後六時より學生集會所に於て例會を開き、左の講演あり。

文明と衰退の法則に就て

杏澤吉太郎君

新著紹介

哲人ブルノ

故文學士 岡本春彦著

この書は著者が文科大學在學中、受験の爲に、自から題を撰んで物して置いたのを、前號に書いた事情の下に、このたび公刊せられたのである。

ブルノオは、近世哲學の先驅者中、最も偉大なるもの一人である。本書の卷頭に、朝永、西田兩博士が心を籠めた序文を添へて居られるが、その一節に據れば、ブルノオの哲學には大體二つの様相が有つて、その一面によつて、彼れはスピノザの先驅者となり、他の一面によつてライブニッツの先驅を爲してゐる。本書によれば、ブルノオは一五四八年に、以太利の南部、エスピアス火山の西北に當るノラと言ふ、南歐の美に充ち満ちた町に生れた人である。十四五歳の交に達して、ナボリの僧院に身を委ね、こゝで天文、數學、哲學を研究し、又詩や劇を作つたが、廿八歳の時異端の宣告を受けて、ロオマに走つて以來、誠に浮草の如く、以